

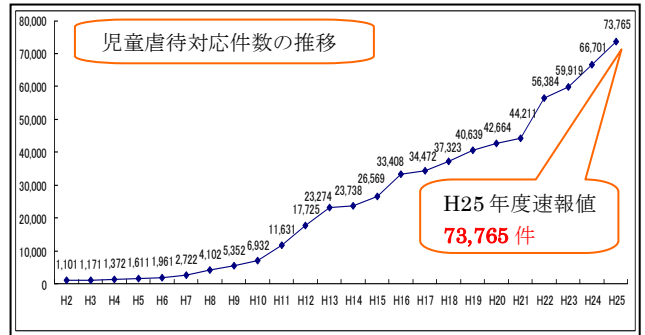
Rainbow Times

平成 25 年度児童相談所における児童虐待対応相談件数 & 親権停止事例

8月4日(月)、児童相談所における児童虐待対応相談対応件数が発表されました。**73,765件**(速報値)と前年度より10.6%増の過去最多の数値となりました。厚労省によると、増加の背景には、DV目撃による警察通告により心理的虐待が増加したことや、きょうだいケースの安全確認の強化とともに、虐待そのものの増加も懸念されています。

平成24年度の民法改正により、親権停止制度が新設されました。平成25年度の親権停止申し立て件数は23件(16自治体)でした。その内、9件は親権停止が認容され、1件が棄却、4件が審判中、9件が取下げでした。認容された事例は、宗教的理由から輸血を拒否した医療ネグレクトケース、臓器移植ネットワークへの登録を拒んだケース、性的虐待により実刑となった父親ケース、施設入所児童の自立を妨げる保護者ケースなどでした。また、親権喪失および管理権喪失の審判の申し立ては、7件(6自治体)でした。(南山)

厚労省 HP : <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000052785.html>



居所不明児童 (Children whose Whereabouts are Unknown)

今年5月、神奈川県で、当時5歳だった男児の白骨遺体が、死後7年以上経過して発見された事件が起きました。この事件を巡っては「居所不明児童」という言葉が盛んに報じられました。居所不明児童の背景には、虐待やネグレクトのリスクも潜んでいる可能性もあります。これまで対応が不十分であったとされ、福祉や教育、保健機関をはじめ様々な機関が対応を検討はじめています。

ここでは、海外での取り組みを紹介します。“Whereabouts Unknown(居所不明児童)”、“Missing from Education(教育課程不在児童)”といったフレーズでインターネットを検索すると、イングランドとオーストラリアのガイドラインがヒットします。その中からいくつかピックアップしてご紹介しましょう。

◎ イングランド教育省は、教育法で定められた「教育を受けていない児童を特定するための取り決めを作成」するに当たっての、市区町村向けガイドラインを出しています(2013)。市区町村の権限(登校命令、親の起訴)や、教育を受けていない児童のリスク(虐待&ネグレクト、移動民族、武力団体所属家庭、家出、非行&加害)や、市区町村内外の連携についてなど、考慮すべきポイントを説明しています。

◎ イングランドのベリータウンでは、不登校児の情報を記入するチェックリストの作成を定めています。このリストには、学校職員が初動ですべき4つの対応と、そしてその後どうするかが、具体的にわかりやすく記載されています。

◎ オーストラリア教育省は、居所不明生徒リストを作成しています。学校は、規定フォームに従い、居所不明生徒について報告します。氏名や民族などの情報以外に、手紙や電話、訪問の試み、前学校の情報収集など、リスト掲載の前にすべき項目が記載されています。

イングランド国家児童局の調査によると、イングランドでは毎日、約15,000人の児童がどこに居るか分からない状態にあると予想されており、教育システムによる不明児童の認識に努めています。一方アメリカでは、司法システムでの管理が主なようです。通称オバマ・ケアと呼ばれる法律により公的機関の家庭訪問が課されており、“missing(行方不明)”児童の情報管理も全国規模で行っており、行方不明届の提出を怠った保護者に対して罰則を与えるなどの法律があります。日本でも、個別機関の対策だけでなく、文科省、厚労省、法務省の連携システムの構築が求められています。(山邊)

棚瀬一代先生がご逝去されました

5月21日、心理臨床家の棚瀬一代先生がお亡くなりになりました。棚瀬先生は、子ども虐待研究や虐待を受けた子どものケアにご尽力され、『虐待と離婚の心的外傷』(2001,朱鷺書房)も執筆されています。また、東京・新宿にある「棚瀬心理相談室・離婚と子ども研究所」では、親の別居・離婚による傷つき体験を抱えた子どもへのプレイセラピー、夫婦(カップル)関係を見つめ直すカップルセラピー、愛着を始め親子間の絆構築を支援するボンディングセラピーが行われていました(HPより)。離婚や別居は親にとって大変エネルギーが必要なことですが、子どもにとっても同じです。棚瀬先生は、子どもの視点をしっかりと持って親子を支援されていました。

センターでは、H25年度テーマ別研修「家族への支援」で講義を頂いた「離婚と子ども」について、講義映像記録(DVD)を作成いたしました。また、講義録を紀要No.12に掲載する予定です。貴重な講義ですので、ぜひご覧下さい。

★ISPCAN・JaSPCAN

子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014★

☆テーマ：子ども中心の社会に向けて
過去から学び、未来に向けて行動しよう

☆会期：2014年9月14～17日

☆会場：名古屋国際会議場

☆参加登録が始まっています。

☆HPをチェック!

<http://www.ispcancongress2014.org/>



◆H26年度の全研修プログラム概要(冊子)HPアップ!

◆各研修の実施要項ダウンロード・申込はHPより

情報発信の配信先アドレスの変更・配信停止等は

guest-1@crc-japan.net までご連絡ください。